

平成24年度京都市交通事業決算概要

第1 自動車運送事業

経 常 収 入	196億47百万円
経 常 支 出	170億46百万円
経 常 損 益	26億 1百万円
△ 累 積 欠 損 金	△10億35百万円
△ 累 積 資 金 不 足	△32億48百万円

<主な業務量等>

年度末在籍車両数	764両 (764両)
走行キロ数 〔1日平均〕	81.0千km (80.4千km)
旅客数 〔1日平均〕	321千人 (314千人)

注 ()内は、平成23年度の数値である。

1 決算の概要

平成24年度決算は、収入面では、旅客数について、市民の皆様方に、全庁を挙げて推進している「歩くまち京都」、公共交通優先のまちづくりの取組にご理解、ご協力いただくとともに、お客様の利便性向上に向けた運行の充実に取り組んだ効果と相俟って、前年度から**7千人の大幅増**となり、**目標の32万人を達成**した。

一方、支出面では、人件費の抑制やバス車両更新台数の抑制等によりコスト削減に努めた。

その結果、経常損益は、一般会計からの任意の補助金を健全化計画よりも約10億円削減したうえで、**26億1百万円の黒字を確保**するとともに、資金不足比率は経営健全化基準の20%を下回り、**計画よりも3年前倒して経営健全化団体から脱却**することとなった。

また、累積欠損金は、過去最大の163億円（平成14年度）から10億35百万円まで縮小し、**一般会計の任意補助金に頼らない自立した経営の実現に向けて大きく前進**した。

2 主要事項

(1) 収入増加策

ア お客様の利便性向上に向けた市バス運行の充実

【24年3月実施】

- ・河原町通での等間隔運行（昼間時間帯3～4分間隔）の土曜・休日への拡大
- ・観光系統（「洛バス」100号）の運行充実
- ・沿線地域との連携による70号系統の運行充実
- ・京都水族館開業に合わせたシャトル便等の新たな運行の実施

【25年3月実施】

- ・公共施設へのアクセス向上や鉄道駅（JR桂川）との乗継利便性向上
- ・観光系統（「洛バス」101号，水族館シャトル）の運行充実

イ バス待ち環境の向上

- ・広告付きバス停上屋の整備の推進（19箇所，24年度末累計：73箇所）
- ・バス停のベンチの新設及び更新（100基，24年度末累計：780基）
- ・バスロケーションシステム設置の推進（5基，24年度末累計：293基）

ウ 公営交通100周年記念事業の実施

(2) お客様サービスの向上と安全走行の推進

ア バス停にインターネット無料接続拠点（WiFiスポット）を設置（298箇所）

イ 案内所，定期券発売所の営業時間拡大

（全ての案内所の営業時間を7時30分～19時30分に拡大，全ての定期券発売所で年末年始を除き日曜祝日も9時～17時まで営業）

ウ ドライブレコーダーの全車両への導入（24, 25年度の2箇年事業）

(3) コスト削減策

ア 総人件費の削減

イ バス車両購入費の削減

更新年数を14年から18年へ延伸し，個々の車両状態を徹底的に点検精査のうえ，更新車両数を抑制（平成21～24年度の累計：健全化計画50両 実績40両）

(4) 一般会計からの補助金の削減

- ・バス車両減価償却費等補助金の休止など，任意補助金を計画より約10億円削減

3 財政状況

年 度 項 目		前年度決算比較（消費税抜額）		
		23年度決算	24年度決算	増 △ 減
		億 百万円	億 百万円	億 百万円
経 常 損 益	営業収益	187 48	188 22	74
	運送収益	176 18	177 90	1 72
	その他	11 30	10 32	△ 98
	営業外収益	18 58	8 25	△ 10 33
	収入計	206 06	196 47	△ 9 59
	営業費用	174 65	168 32	△ 6 33
	経常人件費	68 40	67 38	△ 1 02
	退職手当	7 01	7 00	△ 1
	経費	86 02	84 34	△ 1 68
	減価償却費等	13 22	9 60	△ 3 62
営業外費用	2 48	2 14	△ 34	
支出計	177 13	170 46	△ 6 67	
差 引		28 93	26 01	△ 2 92
特別損益		0	12	12
再差引（純損益）		28 93	26 13	△ 2 80
利益剰余金 （△累積欠損金）		△ 36 48	△ 10 35	26 13
資 本 的 収 支	収入	2 54	9 19	6 65
	支出	23 12	28 67	5 55
	差 引	△ 20 58	△ 19 48	1 10
累積資金不足		△ 48 73	△ 32 48	16 25
資金不足比率		25.9 %	17.2 %	△ 8.7 ポイント

4 企業債の状況

年 度 項 目	23年度末 未償還残高	年 度 内 増 △ 減			24年度末 未償還残高
		発 行 額	償 還 額	差 引	
建設企業債	億 百万円 61 86	億 百万円 6 40	億 百万円 16 01	億 百万円 △ 9 61	億 百万円 52 25

第2 高速鉄道事業

経常収入	287億39百万円
経常支出	335億80百万円
経常損益	△48億41百万円
現金収支 (償却前損益)	69億18百万円
△累積欠損金	△3,405億91百万円
△累積資金不足	△309億16百万円

<主な業務量等>

年度末在籍車両数	222両[37編成] (222両[37編成])
走行キロ数 〔1日平均〕	56.9千km (56.9千km)
旅客数 〔1日平均〕	339千人 (334千人)

注 ()内は、平成23年度の数値である。

1 決算の概要

平成24年度決算は、収入面では、旅客数について、市民の皆様方に、全庁を挙げて推進している「歩くまち京都」、公共交通優先のまちづくりの取組にご理解、ご協力いただくとともに、シンデレラクロスや夜間時間帯の増便による利便性向上の取組が浸透してきた効果などにより、**前年度から5千人増加**した。

一方、支出面では、駅職員業務の一部民間委託化など、コスト削減の取組を着実に進めた。

その結果、**経常損益は、48億41百万円の赤字となり、前年度より19億8百万円赤字が縮小**するとともに、**現金収支は、69億18百万円の黒字となり、前年度よりも13億93百万円黒字が拡大**するなど、いずれも**経営健全化計画を大きく上回る収支の改善**が図れた（経常損益は計画より47億円赤字が縮小、現金収支は計画より42億円黒字が拡大）。

2 主要事項

(1) 収入増加策

ア 全庁を挙げた旅客増の取組

「地下鉄5万人増客推進本部」の体制の下、沿線施設や大学との連携、イベントの開催、「若手職員増客チーム」の取組等による全庁を挙げた増客の取組

(1日当たりの旅客数：22年度からの3年間で1万2千人増加)

イ 公営交通100周年記念事業の実施

明治45年6月11日の市電開業から100周年を記念し、「京都市公営交通100周年記念フェスタ」をはじめ、各種イベントの実施や貸切列車の運行

ウ 駅ナカビジネスの積極的展開

新たな商業スペース「コトチカ京都」の開業や、改札階への飲料自販機の設置など、駅ナカビジネスの更なる拡大

(前年度より1億円以上増収となる年間収入5億51百万円)

(2) お客様サービスの向上

ア 全国10種類のICカード乗車券の相互利用サービスの開始

イ 四条駅トイレ(南改札側)及び京都駅トイレ(改札外側)のリニューアル (段差の解消、洋式便器の設置、パウダーコーナーの設置等)

ウ 駅にインターネット無料接続拠点(WiFiスポット)を設置 (京都駅、四条駅及び五条駅)

エ トンネル内での携帯電話の通信を可能とする環境整備 (烏丸線四条駅～竹田駅間)

オ 案内所、定期券発売所の営業時間拡大

(3) 安全で快適な地下鉄の運行

ア 烏丸線可動式ホーム柵の整備(基本設計)

イ 車両安全対策の実施

(自動列車停止装置等の改良、24年度に全車両の整備完了)

(4) コスト削減策

・駅職員業務の一部民間委託化の拡大等による総人件費の削減など

(5) 一般会計からの支援

ア 京都駅賑わい創出事業(コトチカ京都の整備)への出資金

イ 国制度に基づく経営健全化対策出資金

ウ 市バス事業への補助金の削減を財源とした高資本費対策補助金

3 財政状況

項目		前年度決算比較 (消費税抜額)					
		23年度決算		24年度決算		増	△
		億:百万円		億:百万円		億:百万円	
経常	営業収益	238	67	244	40	5	73
	運輸収益	221	91	225	13	3	22
	その他	16	76	19	27	2	51
	営業外収益	35	43	42	99	7	56
	収入計	274	10	287	39	13	29
	営業費用	240	51	240	40	△	11
	経常人件費	51	01	50	03	△	98
	退職手当	5	89	3	54	△	2 35
	経費	59	19	61	24	2	05
	減価償却費等	124	42	125	59	1	17
損益	営業外費用	101	08	95	40	△	5 68
	支出計	341	59	335	80	△	5 79
	差引	△	67 49	△	48 41	19	08
	現金収支(償却前損益)	55	25	69	18	13	93
特別損益	△	8 79	2	65	11	44	
再差引(純損益)	△	76 28	△	45 76	30	52	
△累積欠損金	△	3,360 15	△	3,405 91	△	45 76	
資本的収支	収入	228	11	221	69	△	6 42
	支出	289	69	305	25	15	56
	差引	△	61 58	△	83 56	△	21 98
△累積資金不足	△	309 15 (△ 138 10)	△	309 16 (△ 78 08)	△	1 (60 02)	
資金不足比率	57.8%		31.9%		△25.9ポイント		

注 「△累積資金不足」欄の下段()内は、財政健全化法における資金不足額である。

4 企業債等の状況

項目	年度	年度内増△減			24年度末未償還残高
		23年度末未償還残高	発行額	償還額	
		億:百万円	億:百万円	億:百万円	億:百万円
建設企業債		2,214	27	169	2,072
出資債		32	0	0	32
特例債		122	6	23	105
資本費平準化債		482	77	28	559
資本費負担緩和分企業債		846	2	17	831
小計		3,665	113	210	3,569
鉄道・運輸機構借入金		426	0	48	378
長期借入金		429	0	8	421
合計		4,522	113	267	4,368